

【3】 研究の経過と本年度の取り組みの基本方針

(1) 昭和63年度の取り組みの概要

小学部テーマを、フロステックのムーブメントの考え方を参考にした「からだを動かすことを楽しむ子」と設定し、研究の構想図を作り、それを基に小学部の児童の実態や発達課題の把握を行った。そして実践場面をリズム・サーキット、合同体育、合同音楽、遊びを中心とした学校生活の全般とし、研究実践を行った。

始まったばかりの研究で実態把握の方法や分析等まだ不十分であり、実践の場での研究も深めていく必要があった。

(2) 平成元年度の取り組みの概要

昭和63年度の取り組みを継続しながら生活単元学習におけるからだづくりについても考えていこうとした。からだづくりに関する子どもたちの活動を支えるものとして『表現しようとする意欲』があるのではないか、その表現しようとする意欲づくりの手立てとして子どもたちの発達段階からみて「みたて・つもり活動」が有効であるという仮説を設定し生活単元学習や合同音楽等を表現活動の面からも考えていった。

その結果「みたて・つもり活動」は子どもたちのからだづくりにとってかなり有効な手段で、その活動の中で楽しんで遊ぶ場面も見られた。しかし、個々の子どもたちを見た場合みたて・つもり活動になかなか入りきれないという意見やみたて・つもり活動に関する研究もまだ十分ではないという課題が残った。

(3) 平成2年度の取り組み

そこで本年度は、子どもたちがより主体的に楽しんで取り組める実践の場としての授業作りを考えていこうとした。その授業作りの一つの方法として、みたて・つもり活動を包括しもっと総合的な活動としての遊び活動を手段として小学部のテーマに迫っていきたいと考えた。この遊び活動の中で

- まずなにより子どもたちの取り組みへの意欲を大切にしていく。
 - まだまだ教師が遊んであげる段階の子どもも多いので教師との関わりのなかで、或いは教師の援助を受けて遊ぶ。
 - このような活動をしていくことによっていきいきとして動くことを培っていこう。
- とした。

実践の場としては次頁のような構想となる。この構想図は直接のからだの指導に関わるリズム・サーキット、合同体育で培われたからだを、日常生活や遊びの中で生かされ、また逆に日常生活や遊びがからだづくりの意欲を押し上げ、これらが互いに関連しあって小学部の研究テーマに迫っていくことを表したものである。

この中で本年度はもう一度直接からだにアプローチしていくリズム・サーキットや合同体育の指

導内容を見直しながら更には組み立ても考えていこうとした授業づくりと間接的にからだを育てていく生活単元学習での授業づくりについて研究していこうとした。

図3 各指導形態のになう役割とそれらのかかわり方及び構想図

